

### しょくぎょうきょういく 職業教育

ある職業に従事するのに必要な知識と技能を与えるための教育。現代日本の学校制度にそくしていえば、高等学校の職業学科のほか、各種学校、専門学校および職業訓練の一部の教育がこれに相当する。西欧諸国においては、職業あるいは職種ごとに、職業上の資格によって従事すべき職域 demarcation や要求される技能の水準を雇用契約などで明示する慣行が一般化している。個々の職業教育の目的、内容、水準などが明確である場合が多いが、日本では、医師、電気工事士、理容師などのように公的資格が設定されている領域を除くと、このような職業慣行は一般的でないため、その職業教育は西欧諸国のそれのように教育内容が細分化されてはいない。第2次大戦前の日本では職業教育ということばが用いられることは少なく、広く実業に従事する者を育成するという意味の実業教育ということばが用いられた。なお、日本をふくむ若干の国では、特定の技能について高度の熟練を要する職業のための訓練を、<sup>\*</sup>職業訓練 vocational training, Berufsausbildung と称し、学校制度で行う職業教育と区別しているが、両者の内容の区分は必ずしも明確ではない。

〔職業教育制度の発達〕 職業教育の制度化は、歴史的には身分および職業の分化に対応して始まったが、中世には、ギルド制下に徒弟が親方のもとで5〜7年にわたって年季奉公し、この間に職業上の

知識や技能、慣習などを修業する「徒弟制度」として発達した。ギルドは王侯あるいは都市から職業上の独占を公認された結社で、構成員の技能水準保持のほか製品価格や賃金維持の目的で成員の採用を厳格にしていたため、職業上の知識、技能やその伝達方法はしばしば秘伝的性格をおびていた。市民革命は身分制を打破するとともに職業選択の自由(営業の自由)を確立したので、ギルドによる職業の独占は廃棄され、徒弟制度も崩壊した。

市民革命後の各国では多様な形態の職業教育制度が発達した。イギリスでは職業教育の学校制度の発達がおくれ、職人による見習工への伝習という徒弟制度の変形した方式が一般化した。プロイセン(のちドイツ)では、19世紀末に創設された公益法人としての手工業会議所の指導下に、広範な分野で年季制による熟練工養成制度が一般化した。産業革命前後から、各国では年少者にたいする普通教育制度を発達させたので、職業教育はしだいに普通教育の基礎のうえに実施されるようになった。このためにドイツやフランスでは職業教育を行う学校制度が発達し、年季制による職人養成制度と共存したが、学校による職業教育という方式はしだいに各国に波及した。20世紀に入ると、職業教育を行う学校については、普通教育の強化と、伝統的に古典語、アカデミックな教科を教授してきた中等学校との接近、統一が教育制度改革の焦点の一つようになってくる。アメリカではいち早くこの改革にとり組んだが、西欧諸国では中等学校の伝統への執着が強く、他方で職種別に組織された労働組合が職種ごとの職域に固執する傾向が強いこととあいまって職業教育の内容が細分化され専門化しているため、この面での教育制度改革にはなお未解決の課題が多い。

【日本の職業教育】 明治維新後の日本では、大工、建具職などの伝統的な職業の分野では年季制で技能を伝習する旧来の教育方法が一般化した。近代的な産業諸分野では、1894年の実業教育費国庫補助法、99年の実業学校令により、初等教育の基礎のうえに職業教育を行う「実業学校」の制度が普及したほか、時代の要求に敏感に対応する柔軟な教育システムをもつ「各種学校」が普及した。工業、農業、商業、水産などの中等程度の実業学校は、第2次大戦後の教育改革によって高等学校の職業学科として再編され、国民教育制度としての中高等教育の一部を構成している。

▶▶▶技術教育:実業教育:職業指導 佐々木亨